

# 輸出リサイクル部品の表示研究

研究ポイント	<ul style="list-style-type: none"><li>□リサイクル部品輸出時の部品への表示記載項目の共通化を図る</li><li>□国内輸出事業者のポジショニングを強化する</li></ul>
目的	輸出リサイクル部品の『共通表示項目を整備』することにより、現在、海外バイヤー主体で取引されている『輸出リサイクル部品売買』に対するイニシアティブを確保する
背景	<p>■現在のリサイクル部品輸出時の品質チェックは、多くの場合業界のヤードに滞在しているバイヤーが行うか、ショッピングバイヤーと呼ばれる人たちが、業界のヤードに来社して品質チェックを行っている。</p> <p>■したがって、輸出時の品質状態の表示に関する問題は、バイヤーの手に委ねられていて、各国に存在するユーザーは、バイヤーの表示方法に依存されているのが現状である。</p> <p>そのため、各国のユーザーは、日本から輸出されるリサイクルパーツの表示方法が正しいのかどうかは、知ることができない。</p> <p>■日本国内で販売されるリサイクルパーツに関する品質表示は、多くの議論がされているが、海外輸出に関することは、一部の業者の間では、議論されているが統一性がまったくないのが現状である。</p> <p>■実態は、中間ブローカーであるバイヤーの良し悪しで、販売金額や需要の増減が決まる。リサイクルパーツの海外輸出の需要と供給を一層拡大することは、国内マーケットを拡大する以上にスケールメリットが見込めるので、この問題を、業界の枠を越えて研究する必要がある。</p>
構想	<p>【表示項目】</p> <p>1.生産者名 2.車体番号 3.走行距離(誤差があるので可能な限り必要、特に先進国では重要視)</p> <p>4.外観や内部に関する客観的な情報 5.製造年月日 6.車名および車体形式、など</p> <p>【取引システム】</p> <p>1.インターネット利用を前提に表示、また対応できる画像等を併用することによって、価値を創出。</p>
部会構成	<ul style="list-style-type: none"><li>・輸出リサイクル部品生産解体事業者⇒自動車解体業者(主に首都圏からテスト研究する)</li><li>・リサイクル部品輸出事業者⇒首都圏の輸出シッパー(ショッピングバイヤーも検討する)</li><li>・ネットシステム&amp;eコマースを構築できる事業者</li><li>・自動車リサイクルパーツの国際流通関連の学識経験者</li><li>・コーディネーター</li></ul>

# 輸出リサイクル部品の表示研究構想

現状

ドライブシャフトに付けられたラベル  
(シーパーツの事例)

オークション用に並べられたENGIにも、  
何かを表示するラベル的なものは見当たらない



基本の考え方

- 《最小限表示する内容》を統一化
- +αの表示および表示方法・媒体などは自由

例

- ✓生産者名
- ✓車体番号
- ✓走行距離
- ✓製造年月日
- ✓車名などの基本情報
- および
- ✓外観や内部の状態に関する客観的情報

タイヤに付けられたラベル  
(シーパーツの事例)

